

市社協 地域福祉シンポジウム 「コロナ禍とその先を見据えた地域福祉活動の展開」 ～ICTを活用した「ぎっつけ」づくりから～	1
中央区 第2回「食糧提供」&「就労相談」で支援 第2回 北御堂フードパントリー	2
平野区 高齢化率50%超えの公営団地の地域力に注目集まる 「平野区「瓜破北」たすけあい活動の会」	3
住之江区 生活支援コーディネーターが足でかせいだ情報を発表 「くらしに役立つ」社会資源情報発表会を開催	4
ICT活用に向けて「アイデア」を形に 「ICTプロジェクトチーム」がスタート	5
市・区社協合同災害対策本部設置訓練 「迅速な被災者支援のために」	6
地域福祉活動の今	6
施設協 くだんのくらしをささげる「こと」 「施設職員の声」前編	7
	8

大阪の 社会福祉

2022.2

801

The social welfare
in OSAKA

大阪市社会福祉協議会

<http://www.osaka-sishakyo.jp>

(前列左から) 八牟禮由紀代さん、藤原慶二先生、原田壽幸さん、
(後列左から) 糸井由之さん、中原沙江さん

市社協

令和3年度 地域福祉シンポジウム 「コロナ禍とその先を見据えた 地域福祉活動の展開」

～ICTを活用した「ぎっつけ」づくりから～

市社協は昨年12月14日、たかつガーデンにて「令和3年度地域福祉シンポジウム」を開催しました。「コロナ禍とその先を見据えた地域福祉活動の展開」～ICTを活用した「ぎっつけ」づくりから～をテーマと

して、関西福祉大学の藤原慶二先生の基調講演と2区の実践報告・パネルディスカッションを通して、これからの地域福祉活動の方向性を共有しました。

(2面に続く)

HB

久しぶりに満員電
車に乗った。幸運に
も座席が空いていた
ので、自分を高齢者
だと納得させて座った▼目の
前に若い女性が立った。しば
らくすると、驚くべきことが
目の前で起こった。女性の後
ろに立つ男性の手が、女性の
お尻のそばで、開いたり、閉
じたりしている。触ろうか、
我慢しようかという葛藤の様
子が、動く手のひらにありあ
りと表れているのだ▼もしこ
の手が女性に触れたら、どう
しようかと、こちらも葛藤。

「痴漢は犯罪です」という駅
のポスターが頭をよぎる▼そ
の前日のことだ。京阪に乗っ
て京都へ行った。特急のシー
トの一つをひっくり返して4
人で座って、しゃべり続けて
いる中年の女性のグループが
あった。このコロナの時代。
ノーと言いたい気持ちはあつ
ても、でも、誰も何も言わな
い。京都まで、声を出せない
長い時間を過ごした▼そんな
光景を思い出しているうち
に、電車が止まって、女性
も、手を出しかけていた男性
も、満員の人々に押し出され
るように電車を降りていつ
た。葛藤は人を成長させるエ
ネルギーになるらしいが、こ
んな葛藤場面は、できればな
いほうがうれしい。(石)

「コロナ禍とその先を見据えた地域福祉活動の展開」

市社協

昨年度の地域福祉シンポジウムは新型コロナウイルス感染症の影響により中止し、市内で長年取り組まれてきた地域福祉活動も、その実施が不確定となりました。一方で、コロナ禍とその先を見据えた活動の継続・再開やICTの活用を含む新たな取り組みも見られるようになる中、本シンポジウムでは、特に、ICTを活動の再開や新しい活動創出の「きっかけ」にした2地域の実践について情報共有しました。

藤原先生は講演のなかで、ウィズコロナ・ポストコロナの地域福祉活動の展開について、対面の良さは活かしつつ、一方、オンラインの活用で多様な参加が可能になる可能性もあり、対面とオンラインの両方のメリットをふまえながら、地域福祉活の選択の多様化を図っていくことが重要ではないかと提起されました。

報告1 中央区 「桃谷スマホサポーターの取組み」

中央区社協では昨年度コロナ禍において、地域福祉活動の一部にオンラインを取り入れるためのきつかけづくりに取り組み



スマホサポーターデビューの日。顔見知りの人も数多く訪れました

ました。それを受け、桃谷地域社会福祉協議会会長の原田壽幸さんは「外出したくてもできない高齢者が、地域の力でふれあい喫茶にリモートでも参加できるようにしたい」との思いを抱くようになりました。

この思いを実現するために、まず始めに、地域の中でスマホの操作をお手伝いするボランティア（＝スマホサポーター）を養成することを目指して、スマホの基本的な使い方を学ぶ講座とその後のフォローアップ講座を開催しました。次に、コロナワクチン予約のお手伝いやふれあい喫茶での「スマホ操作のお助けコーナー」の設置など、受講者が学んだことを活かす場づくりをおこないました。また、「スマホ操作のお助けコーナー」の設置までには、事前練

習会やスマホ操作に関するアンケート調査を実施し、スマホサポーターとしてのデビューまでを支えました。

この取組みを支援する区社協・地域支援担当の中原沙江さんは「今までの活動の中にスマホをツールとして活用することで、見守り活動や新たな人とのつながりが地域の中で広がればと思います。まずは、当初の目標である、ふれあい喫茶に自宅からリモートでも参加できる仕組みをスマホサポーターと一緒に考えていきたい」と話しました。

報告2 住吉区

「どんな形でも、子育てサロン」

「オンラインへの挑戦と対面での再開」



オンラインで久しぶりに顔を見ることができ感激しました

住吉区長居地域の「子育てサロンながい」は、コロナ禍以前は長居小学校生涯学習ルームで毎月1回開催していました。コロ

ナ禍で対面でのサロンが中止となり、長居地域主任児童委員の八牟禮由紀代さんは、会えないでいることもたちやお母さんたちのことが気がかりでした。そこで、区社協にオンラインでの開催を相談し、関係機関の協力も得て、令和3年6月、9月に区社協を拠点にオンライン子育てサロンを開催。その後、地域の理解もあり、地域会館でもオンライン開催することができました。感染状況が落ち着いて11月、12月は通常どおり対面でおこない、今後も状況に合わせて、開催方法を変更しながら続けることとしました。また、開催方法の変更などの情報を知らせるためにLINE公式アカウントを作成、運用を開始し、QRコードを掲載したチラシを各所に配付しています。

区社協・地域支援担当主査の糸井由之さんは、「住吉区内の地域福祉活動は、コロナ禍でも中止することなく継続しているところが多い。一度中止した活動を再開するには大変なエネルギーが必要。区社協として、地域で活動が続けられるよう一丸となってサポートしました」と報告しました。

「コロナ禍の先へ進むために」

2つの実践報告をとおして、コロナ禍という初めて経験する

困難の中でも、ICT活用を含む工夫や柔軟な発想で取組みを実現する地域の思いと、区社協をはじめとする関係者のサポートが、コロナ禍とその先を見据えた地域福祉活動の展開に必要なことが見えてきました。藤原先生は「今回報告いただいたように実践を蓄積し共有することで、他区・他市にも波及する。そのことがこれからの地域福祉活動の発展につながっていく」とシンポジウムを締めくくりました。



会場で24人、オンラインで164人が参加しました

「食糧提供」&「就労相談」で支援

第2回 北御堂フードパントリー

困窮者対象に「食」を提供

区内のこども食堂や学習支援などをおこなう11団体を中心に構成された「中央区子ども居場所連絡会」は、昨年12月11日、北御堂（本願寺津村別院）の一角に会場を設け、第2回北御堂フードパントリー「食糧提供」&「就労相談」を開催。参加団体や協賛企業のボランティア約200人が、寄附された米やパスタ、レトルト食品などを準備し、約900人の来場者に手渡ししました。



食糧を手渡した後、聴取りコーナー（写真奥）へ案内

之さんは企画の背景についてこう話しました。

「新型コロナウイルス感染症の影響でこどもたちと直接ふれあつて支援する活動が制限されるだけでなく、保護者の就労環境も悪化し、生活が厳しくなっている声がメンバーから聞かれました。一方で、支援者による寄附やボランティア協力の申し出が増えている実感もありました」

そこで連絡会は、コロナ禍の影響を受ける世帯に対して食糧を無料配付するフードパントリーを実施すべく、区内の企業・団体に協力を呼びかけ、物品や寄附を募りました。結果、第1回目と同様に目標としていた1000食を全て寄附により賄うことができました。

行政・企業が協力して「職」を支援

コロナ禍で仕事のシフトが減ったり、職を失ったりする人が増えています。このような状況を鑑み、今回は「食」の提供のほかに、「職」を支援するための相談窓口を開設しました。令和元年度の中央区民まつりにつながるようになった中小企業家同友会中央ブロックとの会議

において、「日

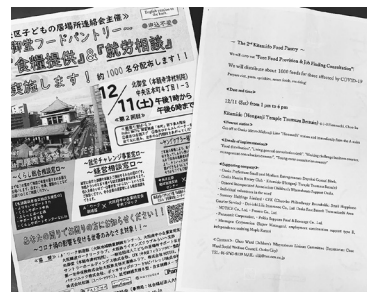
本の企業の中で多くの割合を占める中小企業が就労を支えることができれば」

との話合いがきっかけとなりました。この大きな支援の後盾があることで、多くの関係者から支援を得ることができました。

「くらし総合相談窓口」で

は、御堂筋沿線に近い5区（北区、中央区、西区、天王寺区、浪速区）の生活困窮者自立相談支援窓口が連携し、住まい、仕事や家族のことなど総合的に相談対応しました。「就労チャレンジ事業窓口・経営相談窓口」では、大阪市の就労チャレンジ事業を受託するAワーク創造館（大阪地域職業訓練センター）と中小企業家同友会中央ブロックが、復職をめざした訓練や体験の提供、転職のサポート、経営相談を実施しました。また、家族の介護や世話をせざるを得ないこどもや若者の相談を受ける、市内でも珍しい「ヤングケアラー相談窓口」が設けられ、区内2か所の地域包括支援センターが対応しました。

「くらし総合相談窓口」で相



英語版のチラシも。日本語学校などで配付しました

談対応にあつた中央区くらしサポート中央・主任相談支援員の松岡優子さんは、「さまざまな機関や企業の協力があり、相談者の生の声を共有することができました。今後は、さらにながりの輪が広がるように継続していきたいと思います」と話しました。

これまでのつながりが活かされる

支援の幅が広がったのは、イベントの主旨に賛同する企業や団体、そこから派生するそれぞれの横のつながりがあったからです。区社協でいえば、コロナ禍で貸会議室探しが困難なか、場所を提供いただいた北御堂や、社員のボランティア活動について相談を受けた生命保険会社などとの縁がありました。

「コロナ禍の影響でお困りの方に対して、さまざまな人の『何かできることをしたい』という思いを受け止め、日頃からのつながりを活かしてどこまで支援ができるか、社協の力のみせどころです。今回の経験で、活動の軸となるキーマンの重要性を改めて感じました」と中納さん。

「もっと周知してほしい」と期待の声も

食糧配付時におこなった聴取りによれば（来場者849人、回答者595人）、来場者の8割近くが「単身世帯」「夫婦と子世帯」「ひとり親世帯」で、国籍では約4分の1がアジアを中心とした地域に暮らす外国籍の人でした。また、就業面においては、仕事をしているがコロナの影響で突然厳しくなった、無職の回答が約半数を占め、自由聴取りでは「失業後間もない」「就職が厳しい」「保育所に入所できない」と窮状の訴えとともに、「もっとこのような取り組みを周知してほしい」など期待の声も聞かれました。

この声を受け止め、区社協では今後も「つながり」を活かし、支援を続けていきます。



約50人が各相談窓口を利用しました

高齢化率50%超えの公営団地の地域力に注目集まる

— 平野区「瓜破北たすけあい活動の会」 —

日常の困りごとを支え合う仕組み
「瓜破北たすけあい活動の会」

大阪市平野区南西部にあり、高齢化率50%を超える公営団地に約1200世帯1800人が住む瓜破北地域では、日常の「ちよつとした困りごと」を有償により住民同士で支え合う仕組み「瓜破北たすけあい活動の会」（以下、活動の会）が令和元年10月に発足しました。

令和3年度、さわやか福祉財

団主催「いきがい・助け合いサミットin神奈川」ポスターセッションで、この「活動の会」の紹介ポスターが全国第3位に入賞し、同財団の機関紙「さあ、言おう」12月号に特集されたこともあり、この活動が注目されています。

会員登録者は現在108人。利用会員81人、活動会員21人、両方会員3人、応援会員3人、活動累計は86件です。

内容は、電球や水道パッキンの交換、家具の移動などの軽作業が多く、掃除や買い物・病院



建て替えて高層化した公営団地

などへの付添いなど、なかには口述筆記や話し相手などの活動もあります。利用には会員登録が必要で、30分500円、以降

希薄化したつながりを再構築する住民力

「活動の会」設立のきっかけは、老朽化した団地の建て替えでした。

平成29年頃から、建て替えに伴う転居や移動などで住民同士のつながりが薄れ、高齢者の孤立は深刻な状態になりました。

「このままでは今できている活動も、3年後、5年後にはできなくなるかもしれない。元氣な人がいる今のうちに、どないかせんとあかん、との危機感が発端でした」と、当時を振り返る瓜破北社会福祉協議会会長の西尾富久二さん。

つながりの再構築が望まれるなか、翌30年1月、平野区役所、平野区まちづくりセンター、地域包括支援センター、そして生活支援コーディネーター（以下SC）などによる「有償活動プロジェクトチーム」が、平野区における協議体のワーキング

チームの一つとして立ち上がり、子さんは「お礼のことを気にせず、気兼ねなく頼めるのがあるがたい」という利用者からの声を聞くそうです。

「活動の会」の掲載誌や増員キャンペーンチラシを住民に手渡す班長（左）



「活動の会」の掲載誌や増員キャンペーンチラシを住民に手渡す班長（左）

録。その後も活動者向け勉強会を開催し、実施までに約1年の準備期間を設けました。

「サービス」ではなく「ボランティア活動の一環」として助け合い、「お互いが顔なじみの関係」をつくることを目的とし、活動の記録を集約して、そこから困りごとの把握につながる仕組みを検討しました。

「この仕組みを理解していただくために、説明会や研修などを丁寧におこなう必要があります」と平野区社協・第1層SCの井上佳奈さん。

着実に依頼を積みあげて、「活動の会」は今も成長しています。昨年末には3周年を記念して登録会員増員キャンペーンを実施。今年度新たに配置された第2層SCの村上千富美さん、小幡真紀さんも広報で地域を後押ししました。

地域が抱える問題に真摯に向き合いながら、瓜破北地域の挑戦は続きます。

URIWARIKITA TASUKEAI KATUDOU NO KAI
瓜破北たすけあい活動の会

1960年 公営住宅のみの地域としてはじまる

2017年 高層住宅として建て替え完了する

高齢化率50% 隣り組での立ち話もなくなくなり住民同士でつなぐが希薄化 70歳以上の独居世帯数は 400/1200世帯に

2018年 会長の思いをうけ 瓜破北地域 平野区役所 瓜破地域包括支援センター 平野区まちづくりセンター 生活支援コーディネーターが結束 有償活動プロジェクトチーム（有償PT会議：協議体）発足!!

2018年12月 毎月の有償PT会議で話し合い

2019年6月 ちよつとした困りごとを住民同士でたすけあう仕組みを考えよう！

2019年6月9日 コーディネーション研修会

2019年8月 住民の方への説明会

2019年9月 活動者養成講座の開催

2019年10月 30分500円 瓜破北たすけあい活動の会発足!!

2021 NOW!!

瓜破北社会福祉協議会
協力 大阪市平野区有償活動プロジェクトチーム（協議体）

「活動の会」のポスター

30分ごとに300円の追加料金が発生し、謝礼金として利用者が活動者へ直接支払います。利用者や活動者のマッチングを担う瓜破北地域福祉活動コーディネーターの生方子さんは「お礼のことを気にせず、気兼ねなく頼めるのがあるがたい」という利用者からの声を聞くそうです。

生活支援コーディネーターが

足でかせいだ情報を発表

「くらしに役立つ！社会資源情報発表会」を開催

地域のお宝情報を共有

括支援センターの職員など21人が参加しました。

住之江区社協は、昨年12月6

日に「くらしに役立つ！社会資源情報発表会」を開催し、第1層及び第2層生活支援コーディネーター4人が「足でかせいだ」高齢者のくらしに役立つ区内の情報を発表しました。

この発表会には、日頃から高齢者に関わり、相談を受けたり情報提供している、見守りあったかコーディネーターや地域包

地域の
お得意さんのために

生活支援コーディネーターが

約8カ月かけて集めた社会資源情報513件のうちの一部である「でんき屋」「薬局」「工務店」「コインランドリー」「水道屋」「訪問理容」「スーパの宅配」「コンビニのサービス」「クリーニング店」が、各地域に何件

あるのか、どんなサービスや特長があるのかの情報をまとめ共有しました。実際に一軒一軒足を運んだということもあり、訪問時に聞き取ったエピソードも豊富。

例えば、ある電気店では、ひとり暮らしの高齢の方が高額商品を購入する

ときには、家族やケアマネジャーに連絡を入れているとのこと。ある薬局では、生活支援コーディネーターから「お薬手帳の中に、ケアマネジャーの名前を書くところがあれば便利かもしれませんね」と提案したこともありまし

生活支援体制整備事業
くらしに役立つ！！
社会資源情報発表会

生活支援コーディネーターが8か月間のローラー作戦にて、足でかせいだ高齢者のくらしに役立つ「社会資源」（地域のお宝）の情報について発表します！
「こんなものがあつたんだ！」と知る情報がきくとあるはず、是非ご来場ください！

日時
12月6日（月） 午後1時～3時30分

場所
区在宅サービスセンターさざなみ 3階 多目的室

発表者
生活支援コーディネーター（松川、澤枝、榎原、三橋）

内容
さっぱりしよう！訪問理美容
ここまでしてくれる！スーパの宅配
お薬について教えてくれる！薬局
修理等対応！まちのでんき屋
小工事OK！工務店
大型洗濯可能！コインランドリー
いろいろ便利！コンビニのサービス
洗濯してくれる！クリーニング店 等々…

【問合せ先】社会福祉法人 大阪市住之江区社会福祉協議会
TEL: 06-6686-2234 所在地: 大阪市住之江区御崎4-6-10

た。また、多くの店で「地域あつてこそ」「昔から馴染みのお得意さんのために」の声が聞かれ、生活に身近な地域の商店などが、高齢者の生活を支えていることがわかりました。他にも、スーパの宅配について、発表会参加者から「ここにもこんなお店があるよ」「あのお店は配達してくれははす」などの情報提



地域のお宝情報の発表に参加者も熱心に聞き入りました



訪問して聞き取ったエピソードもあわせて報告

供があり、今後の社会資源情報収集の参考となりました。

「くらしの達人」へ
バージョンアップ

今回、中心となって情報を集めた第2層生活支援コーディネーターの澤枝裕江さん、三橋あすかさんは、「高齢者のサービスにつながる社会資源ということで地域を訪問したことは、住之江区内の地域を知る意味でも役立つと同時に、エピソードをインタビューさせていただくことで、より深く関係づくりができたと感じています。また、まちの電気屋さんが量販店との差別化を図るためにおこなっている地域に密着したサービスにつ

いても、『お互いの信頼のうえに成り立つもの』であることができた。このことは今後の生活支援コーディネーターとしての活動に必ず役立つと考えています」（澤枝さん）、「今回の社会資源情報は、一軒一軒ローラー作戦で収集しました。多くの方に協力いただき、お話を聞かせてもらいました。今後何かしらの関わりを持ち続け、そこから地域に役立つ情報発信、また活動へとつないでいけたらと思っています」（三橋さん）と話しました。

区社協では今後これらの情報の内容を充実させ、医療機関、銭湯やリサイクルショップなどを掲載し、「くらしの達人（仮）」を作成する予定です。

「ICTでもつながりづくりプロジェクト」レポート②

ICT活用に向けて、アイデアを形に

プロジェクトチームが始動！

「ICTでもつながりづくりプロジェクト」とは？」

ICTの魅力や活用方法をわかりやすく伝えることで、ICTを活用した活動やつながりづくりが活性化されることを目的に、区や担当業務の枠を超えて、ICT活用について検討し、発信していくプロジェクトです。

※ICT=Information and Communication Technology
(情報通信技術)

令和3年9月開催の「ICTでもつながりづくりプロジェクト」ラウンドテーブル（本誌令和3年10月号掲載）で出された意見やアイデアを形にし、地域福祉活動でのICT活用を進めていくために、「ICTでもつながりづくりプロジェクト」チームが動きだしました。区社協職員6人を中心としたチームで検討を進めています。

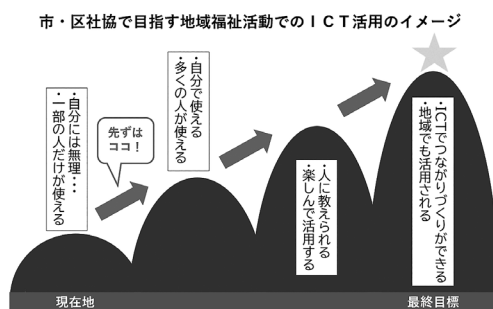
話し合いを重ねる中で、「まずは社協職員のICTや動画作成・発信についての知識・技術を高めることで、地域のさまざまな活動やつながりづくりに効果的に活用できるようにするのはないか」との意見がありました。そのため、今はまだ「ICTは苦手・使ったことがない」という職員が、ひとりでも多く「ICTを使う・使っ



「ICTでもつながりづくりプロジェクト」チームメンバー			
都島区社協	包括支援担当	月元	三幸さん
天王寺区社協	第2層SC	市林	麻衣さん
浪速区社協	第1層SC	土岐日向子さん	
東成区社協	地域支援担当	松原	朱里さん
城東区社協	地域支援担当	松田	麻美さん
西成区社協	第1層SC	杉本	圭市さん

※SC…生活支援コーディネーター

活性化する）にたどり着けるよう取り組んでいきます。



市・区社協合同災害対策本部設置訓練

迅速な被災者支援のために

いざという災害時、社協では日ごろからのつながりを活かして、被災者支援に取り組む使命があります。防災初期期において、迅速かつ適切な対応ができるよう、大阪市社協・区社協は12月22日に合同で災害対策本部設置訓練を実施し、合計370人を超える市・区社協職員が参加しました。

今回の訓練は早朝の時間帯に市内で最大震度7を計測したと想定し、防災直後から2日間の動きを確認する内容でした。まずは職員の安否確認に始まり、順に参加した職員から災害対応を開始。市・区社協間の連絡ツールを最大限に活用して各区の状況を把握し、市社協で一元化した情報をもとに今後の対応の検討、実施につなげていきました。

参加した職員からは「災害時には情報の共有、役割の明確化が大切であることを再確認した」「勤務時間外に発災した場合には、訓練ほどの人数は参集できないことを想定して、最小限の人員で初期期にまず何をしなければならぬのかを全員が知っておく必要がある



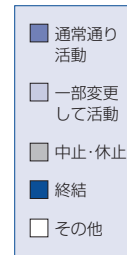
各所から届く情報や連絡を、模造紙に書き出して共有

地域福祉活動の今2

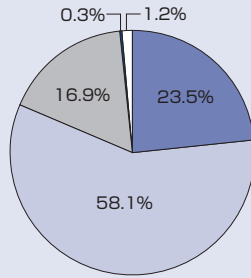
—「コロナ禍における
地域福祉活動状況調査」より—

市社協では、地域福祉活動の再開やポストコロナを見据えた活動について共に考えるきっかけとして、コロナ禍における地域福祉活動の状況の推移を定期的に調査し、共有しています。今号では、令和3年12月末時点の市内の地域福祉活動状況を掲載します。

を受け発出されていた緊急事態宣言が9月30日に解除されこともあり、令和3年10月末時点の今回の調査結果と比較すると、各活動ともに再開の動きが見られました。また、再開に向けての話し合いや準備をおこなっている活動もあります。

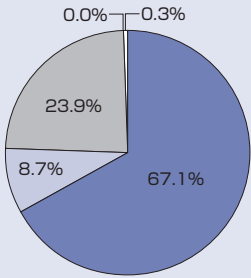


A. 食事サービス



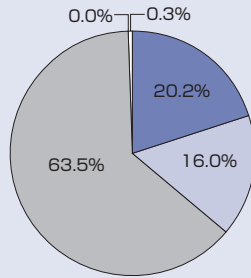
「通常通り活動」「一部変更して活動」を合わせて前回調査より6.5%増加しています。

D. いきいき百歳体操



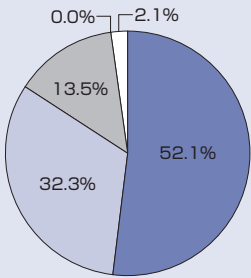
「通常通り活動」が67.1%を占め、前回調査より15.3%増加しています。

B. ふれあい喫茶



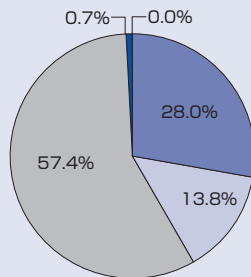
前回調査より「通常通り活動」が4.8%、「一部変更して活動」が2.2%増加しています。

E. こどもの居場所活動



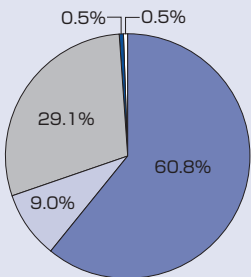
前回調査と「通常通り活動」に変化はないものの、「一部変更して活動」が4.2%増加しています。

C. 子育てサロン



前回調査より「通常通り活動」が11.6%、「一部変更して活動」が8.1%増加しています。

F. その他の社協に関わる居場所活動



「通常通り活動」が前回調査より14.2%と大きく増加し、「中止・休止」が11.1%減少しています。

風をよむ

産前・産後の孤立を防止するために できることは何か

大阪市立大学大学院 生活科学研究科 特任准教授 中島 尚美

出産は命がけである。新しい命をこの世に送り出すこと、そして迎え入れることを妊産婦一人で行うことは難しい。しかしながら、現実には様々な悩みを抱え孤立したまま妊娠期を過ごし出産を迎える女性や、この世に生を受けて間がないうちに命を落としてしまう子どもがいる。

産前・産後の孤立を防止するためにできることは何か。子どもは「出自を知る権利」を有し、保障されなければならない。様々な事情はあるにせよ、自分の父と母は誰なのか、という問いに答えられる社会システムが必要である。内密出産の場合は出産した母親の名前を子どもが一定の年齢に達した時点で知ることができるとされる。母親だけでよいのか。父親はなぜ必要でないのか。この点も含めての議論が必要である。早期からの性教育の導入や課題を抱えた妊産婦が発信しやすい孤立出産を防止できるようなシステム、そして出産後の手続きに伴う法整備を急ぐ必要がある。

2021年12月に熊本県の慈恵病院において「内密出産」を希望する女性が出産し、日本で初めてのケースになる可能性がある」と発表された。その背景には、パートナーからの暴力や虐待歴のある

※子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について(第17次報告)の概要

ふだんのくらしをささえるしごと ー施設職員の声ー

前編

大阪市内には、高齢者、障がい者、こども、生活困窮者などを対象とした社会福祉施設が約1,000か所あり、そこには一人ひとりの暮らしを支える施設職員がいます。「具体的にはどんな仕事?」「やりがい?」「大変なことは?」——「福祉を学ぶ学生のための施設職員とのWEB懇談会」(令和3年11月)に出席した10人の若手職員に聞いてみました。今回は前編として5人分を紹介します。

※本記事は大阪市社会事業施設協議会HPとの連動企画です。詳細はHPからご覧ください。

URL <https://sisetsukyo.osaka-sishakyo.jp/post-training/fukushigoto-1/>

- | | | |
|---------|-------------------|--------------|
| ①児童福祉施設 | 聖家族の家(東住吉区) | 水谷 千菜さん【9年目】 |
| ②保育施設 | 天宗東住吉園(東住吉区) | 森下 幸弥さん【8年目】 |
| ③高齢者施設 | 加美北特別養護老人ホーム(平野区) | 齋藤 愛さん【9年目】 |
| ④生活保護施設 | 救護施設 三徳寮(西成区) | 樽井 将哉さん【6年目】 |
| ⑤障がい者施設 | エフォール(東淀川区) | 宝来 歩実さん【4年目】 |



リンク先のページでは、写真とともにそれぞれの仕事のエピソードや思いをQ&A形式で掲載

福祉を学ぶ・関心のある学生の方など、PC・スマホからぜひご覧ください



「行政書士によるリモート(テレビ電話)でつなぐ無料相談会」 ～そうだ、行政書士に相談しよう!～

大阪府行政書士会では新型コロナウイルス感染症の心配がない、インターネットや電話による、相続、遺言、後見などの困りごと相談会を開催します。詳細は、大阪府行政書士会ホームページまで。

- 日 時: 令和4年2月15日(火) 10時～16時(原則予約制)
○相談方法: ①相談者の通信端末(携帯電話・スマートフォン・パソコンなど)によるリモート接続(電話又はZoomのいずれか)
②府下8か所のサテライト会場からのリモート接続
○ご予約・お問い合わせ: 大阪府行政書士会事務局
06-6943-7501
○申込締切: 令和4年2月10日(木) 17時



■令和4年度(2022年度)赤い羽根共同募金記念バッジデザインを募集

令和4年度共同募金運動期間中に、募金運動に協力した方へのお礼や赤い羽根共同募金をPRするためなどに用いる記念バッジのデザインを、近畿6府県の共同募金会が合同募集します。

- ◎応募資格: 近畿6府県(滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県)内に在住または在勤・在学の方
◎締 切: 令和4年4月14日(木) 必着

デザインのきまりなど、詳しくは大阪府共同募金会ホームページをご覧ください。



令和3年度記念バッジデザイン

■令和4年度公益財団法人中央競馬馬主社会福祉財団助成要望書受付のお知らせ

大阪府共同募金会では、一般社団法人京都馬主協会を通じて行う標記財団の助成金に係る助成要望書を受け付けます。

受付期間=令和4年3月1日(火)～3月31日(木)(必着)
助成対象=民間社会福祉施設整備費

一定条件が必要ですので、詳しくは、大阪府共同募金会ホームページ <http://www.akaihane-osaka.or.jp> をご覧ください。
問合せ=大阪府共同募金会事務局まで ☎06-6762-8717

赤い羽根おおさか

検索

立ちどまらない保険。
MS&AD 三井住友海上

三井住友海上の安心

GK

クルマの保険 家・持ち物の保険 火災・盗難の保険

www.ms-ins.com